

オスプレイ低空飛行ルート

政府は公表拒むが米軍は公表

日本政府は、米海兵隊の垂直離着陸機MV-22オスプレイが日本の山岳地帯で行う、航空法の最低安全高度（150m）を大きく下回る対地高さ200m（約60m）の超低空飛行訓練のルートを非公表にしました。

（7月7日の日米合同委員会合意）。そこには米海兵隊の飛行マニュアルは、ルートの公表を前提としていることが分かりました。



日米共同訓練レゾリュート・ドラゴンで低空戦術訓練を行うMV-22オスプレイ=2022年10月13日（米国防総省DVIDS）

マニュアルに明記

日本の山岳地帯にはスキ

ー場のリフトや送電線、林

業用のワイヤなど、無数の

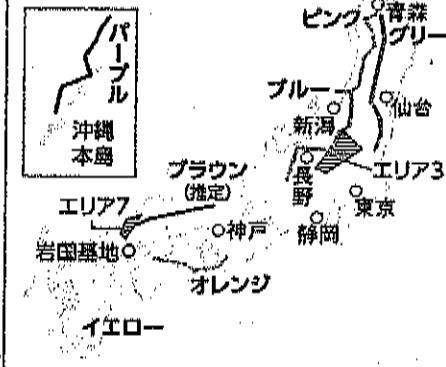
・防災ヘリやドクターへリ

（出典）ルートは2022年の米軍訓練ルートをもとから。
自衛隊の訓練空域は防衛省資料より

米軍の飛行訓練ルートと
自衛隊の低高度訓練空域

太字はルート名

■は米軍が独占使用する
自衛隊の低高度訓練空域



障害物が存在します。山岳

地帯を低空で飛行する消防

ヘリコプター

（出典）ルートは2022年の米軍訓練ルートをもとから。
自衛隊の訓練空域は防衛省資料より

反対の声おそれ

訓練の事前情報を求めてき
ましたが、政府はこれまで
拒否しています。

米軍は日本国内での訓練
を過然の「権利」とみなし
ており、闇でしてしま
せんが、日本の低空飛行訓
練ルートは「山岳地帯」と
いっても直下に多くの自治
体が広がり、国家も存在し
ます。12年にルートが明ら
かになった際、全国でオス
プレイの訓練反対の声が広
がりました。日本側は、こ
うした声をおそれ、今は
当初から非公開にしたもの
とみられます。

飛行を「制限された空域、
軍事作戦区域および公表さ
れた軍事訓練ルートで実施
する」と明記しています。
実際、海兵隊は米ハワイ州
へのオスプレイ配備が半ば
環境影響評価書（12年6月）
▽高知県・早明浦ダムでA

月）には、低空飛行訓練を行
う区域の名称を具体的に記
しています。

6

攻撃機が墜落（94年）一
など低空飛行訓練による重
大事故が相次いでいます。

オスプレイをめぐって
は、特有の欠陥である「ハ
ブ・クラッシュ・エンゲ
ジメント（HCE）」の発
生で墜落や飛行不能といっ
た重大事故が相次いでいま
す。高度60mで機体を異常

が発生した場合、墜落の回避は不可能です。国連に情
報を聞いたまま、危険を低
空飛行訓練を行なうことは許されません。